本学では情報学は情報科学とコミュニケーション学とコンピュータ科学と定義づけている。新学部の特色として、次の諸点が挙げられる。

①セメスター制の導入。

②大学設置基準の大綱化に伴っても、一般教育科目（基礎科目と称し、原則的に先修科目指定）を重視すること。

③専攻学科制をとる訳ではないが、学生が将来どういう方面に進むかという点を配慮して三つの履修メニュー情報科学系の学生に適した知識情報、政策科学や経営情報学を学びたい学生用の組織情報、テレビやマスコミ、ニューメディアに関連したメディア情報を設置したこと。

④語学教育の重視。既存の六学部では第一外国語を英語（必修）とし、第二外国語として独・仏・露・中・スペイン語の五科目（どれか一つを選択必修）、計六科目で構成されているが、新学部ではここに朝鮮語を加えて七科目にしたことに加え、学生は主選択（十二単位）と副選択（四単位）という形で、何を履修しても自由である。

⑤少人数教育の徹底。演習や実習など。

大学冬の時代に向けて

広島修道大学総合企画課　加利川　友子

二十一世紀委員会構想発足

一九九二年一月、本学はより個性的な大学を創り、「大学淘汰の時代」を勝ち残るための構想母体として、「広島修道大学二十一世紀委員会」（香川学長…当時）を組織した。そしてこの中で本学の課題を学長私案、「二十一世紀の広島修道大学」として発表した。

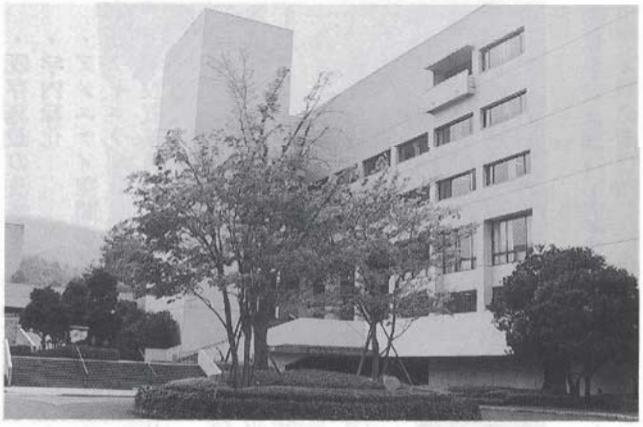
構成は学長、学部長（三名）、学長補佐員（三名）、事務局長、事務局次長の九名。展望、課題は必要によりワーキングコミッティーを置き検討を進め、大綱を理事会に提案するというものだった。事務担当は企画広報課。

■目標、課題の設定

「広島修道大学二十一世紀委員会」はまた、本学の抱える問題点として、①大学の基本目標・長期戦略の確立、②私学としての特色の明確化、③管理・運営における統括機能の明確化、④意思決定機関の権限の明確化、⑤教職員間でのコスト認識の問題等を指摘し、それを踏まえて今後の目標、課題を設定していった。

「第一回中間報告書」作成

一九九二年度の「二十一世紀委員会」（藤田学長）は、基本的には前年度の目標課題設



けやき　本館前，ロータリーに植えられているもので，本学のシンボルツリーとして愛されてきた

を継承し、「第一回中間報告書」としてまとめた。そして現在に至っている。

その構成は、よりトータルな大学づくりへの、さらに広い分野からの提言を求めて次のように変更した。学長、学部長（三名）、教務部長、学生部長、短大部長、学長室長、事務局長、同次長で構成され、その事務は総合企画課が担当する。

第一回中間報告書の内容

第一回の中間報告書によると、その中での重点課題は次の五点に集約されている。いずれも本学にとって、新大学づくりへの避けられない緊急的なものである。

①将来計画（学部学科の改組・新設）

■新しい学部づくりへの論議

最近新設の学部・学科は、環境、国際、人間、情報をキーワードにしたものが多い。さらに目新しい計画は立て難いが、内容の充実したユニークな学部、学科であることが求められる。

■大学院の充実

新学部の問題と並んで大学院の充実も大きな課題である。まず、法学研究科国際政治学専攻の設置が具体的な日程にのぼっている。さらに、商学研究科の社会人を対象とした昼夜開講制導入方針が承認されている。

②自己点検・評価

本学における自己点検・自己評価のあり方を検討するため、一九九二年五月「大学の自己点検・評価検討委員会」が二十一世紀委員会の専門委員会として発足した。一九九三年一月二六日に答申が提出された。答申は大学の自己点検・自己評価が大学の社会的責任および本学の向上・発展をめざす自己改革の実行に必要不可欠な活動であり、早急に実施されるべき課題としている。

また、自己点検・評価の一項目である大学の管理運営について「大学の管理運営に関する特別検討委員会」を別途設置、三次にわたる答申が提出された。

③建設問題

・学内新施設（図書館、教室、研究室）
・旧市内の研究・教育施設
・新交通システムとのアクセス
・既存施設の改修
・学内緑化
・アメニティ空間の整備

④カリキュラムの改革

大学設置基準の改正に伴い、現行カリキュラムの見直しが必要となった。

商学部はコース制を採り入れ専門科目の抜本的な改正をし、一九九二年度より実施した。また、人文学部は専門科目の一部を改正し、一九九二年度より実施した。

一般教育等を含めたカリキュラム改正については、さらに各学部で検討を進めている。特に学部横断的一般教育科目のあり方等、学部間の調整に着手している。（専門科目は各学部教務委員会、学部間の調整及び学部横断的一般教育科目の検討は全学教務委員会に委託）

⑤ＵＩ（ユニバーシティー・アイデンティティ）の確立

大学はその教育の理念・目的を明確にし、人材育成、学問・文化の伝承と発展に貢献するという、大学本来の使命を社会に明らかにしていく義務がある。大学がどのような教育目標を掲げ、それをどのように達成していくのか、学生及び社会に何を提供していくのかということを自ら明確にしておかなければならない。つまり自らの存在基盤、存在意義の確立である。大学のＵＩ活動は、すなわち自らの主張であり、積極的な訴えかけでもある。

大学冬の時代といわれる『今』だから……ではなく、永遠の課題として考えていきたい問題である。

修大フォーラム

プール，学生ラウンジ，国際交流ラウンジ等々のスペースを一体にした建物。学生や教職員がいつでも集い，憩えるコミュニケーション創造の空間を提供してくれる